

お買い上げいただきありがとうございます。ご使用前にこの説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。
この説明書は、必ず保管してください。

安全上のご注意

安全にお使いいただくための注意事項を説明しています。必ずお守りください。
なお、有資格者以外の電気工事は法律で禁止されています。

	警告	死亡または重傷を招くおそれがある危険な状況を示します。
	注意	軽傷または中程度の傷害を招くおそれがある危険な状況および物的損害の発生するおそれがある場合を示します。

お守りいただく内容を次の図記号で区分しています。

- 注意する
- してはいけない
- 必ず守る

■吊上げ時および搬送時のご注意

警告			
	本製品を吊上げる場合には、必ず4カ所で吊上げ、天板の水平面に対して45°以上の角度で均一な荷重にしてください。 2カ所での吊上げや45°未満の吊上げ角度、吊上げ可能質量オーバーは落下・破損・けがの原因になります。 吊上げ可能質量：900kg（製品質量を含む） 製品質量はカタログをご参照ください。		
	本製品を連結した状態で吊上げ作業は行わないでください。 変形・落下・けがの原因になります。	本製品をワイヤーなどで荷台に固定する場合は、扉に直接荷重がかかる方向において、荷締器具による締めすぎにご注意ください。締め過ぎにより蝶番が破壊し、扉の転倒・けがの原因になります。	

■施工上のご注意

⚠ 注意

アースせよ

感電防止のため、必ず接地（アース）をしてください。接地端子は前面下のフレーム右側に M10 ボルト（本体用主接地）、扉・側板・天板に M6 ボルトがあります。右上表の適正締付トルク値を守り正しく締付けてください。

コンクリート基礎の上面は、前後左右に勾配を設けてください。

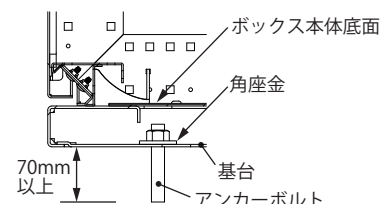
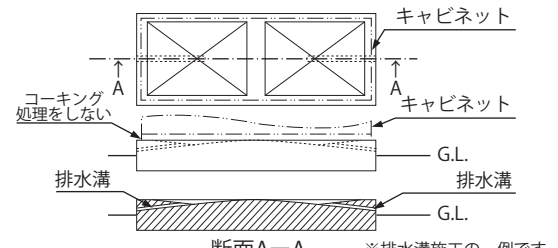
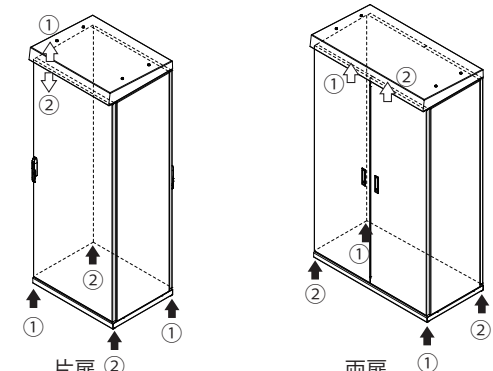
使用するねじなどは指定されたものを使用してください。取付けの際は、適正締付トルクにて締付けてください。締付が不十分な場合、破損・落下などの原因になります。また、締付け過ぎの場合は、ねじ山を破損するおそれがあります。

ねじの呼び	適正締付トルク N・m
M6	2.9～4.4
M10 接地端子ボルト	13.0～20.0

引込、引出配線は、原則としてパイプにて施工してください。

パイプ工事完了後は、パイプの周囲より漏水の無いように配慮してください。

⚠ 注意

❗	キャビネット奥行きが浅いものや高さの高いものは、所定のアンカーボルト以外にも必要に応じ転倒防止の処置を行ってください。機器の取付位置、質量等により地震時に転倒するおそれがあります。 内部に雨水などが溜まるのを防ぐため、下図のような排水溝を設けてください。 排水溝の流出口には金網を張るなどして小動物の侵入を防止してください。	❗ 基台は、耐震対策のため、必ず角座金などにより補強し、M16のアンカーボルトによって固定してください。 								
⊘	コンクリート基礎と基台の間のコーキング処理をしないと、キャビネット内部に雨水などが溜まり、結露や錆の原因となるのでコーキング処理はしないでください。  断面A-A ※排水溝施工の一例です。	⚠ <table border="1" data-bbox="901 403 1484 459"> <thead> <tr> <th>アンカーボルト径</th><th>最小埋込深さL ※1</th><th>短期許容引抜荷重 ※1</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>M16</td><td>70mm</td><td>9.2kN</td></tr> </tbody> </table> ※1 一般的な床スラブ上面でのあと施工金属拡張アンカーボルト（おねじ形）使用時における参考値です。 設置場所、アンカーボルト種類によって値は大きく変わります。 アンカーボルト固定前に扉を開ける際は、前倒防止の処置をしてから扉を開けてください。扉を開けると前倒れし、けがの原因になります。 アングルなどを使って設置面を上げる際は、下側からキャビネット内部に水が浸入するおそれがあります。	アンカーボルト径	最小埋込深さL ※1	短期許容引抜荷重 ※1	M16	70mm	9.2kN		
アンカーボルト径	最小埋込深さL ※1	短期許容引抜荷重 ※1								
M16	70mm	9.2kN								
❗	床面が平行でなく扉にひずみが生じた場合はスペーサーなどにより接地面が平行になるように調整してください。 調整方法 ドアが①の方向にひずんだ時は、 ↑①のカ所のどちらか一方にスペーサなどを入れてください。 ドアが②の方向にひずんだ時は、 ↑②のカ所のどちらか一方にスペーサなどを入れてください。 【オプションパーツのご案内】 スペーサには、オプションの「基台用スペーサ」をご利用ください。 <table border="1" data-bbox="231 1019 829 1120"> <thead> <tr> <th>名称</th><th>品名記号</th><th>摘要</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">基台用 スペーサ</td><td>BP17-10SU</td><td>U 字（アンカーボルト用、t1.0）</td></tr> <tr> <td>BP17-1030S</td><td>50mm 角（t3.0）</td></tr> </tbody> </table>	名称	品名記号	摘要	基台用 スペーサ	BP17-10SU	U 字（アンカーボルト用、t1.0）	BP17-1030S	50mm 角（t3.0）	
名称	品名記号	摘要								
基台用 スペーサ	BP17-10SU	U 字（アンカーボルト用、t1.0）								
	BP17-1030S	50mm 角（t3.0）								

■使用上のご注意

⚠ 注意

屋根、天井面への局所的な荷重を避けてください。変形の原因になります。

落下などの強い衝撃を与えないでください。衝撃によりヘコミやひずみが発生し、強度の低下の原因になります。

高温・高湿、腐食性ガスなどの雰囲気での使用は避けてください。錆や腐食が発生します。

搭載可能質量を超える物を取付けないでください。転倒・性能の劣化・破損・けがの原因になります。

搭載可能質量	
耐荷重性能	耐震性能 ※2
1000kg	500kg

※2 耐震性能は弊社搭載条件により評価を行っています。

IP 性能を保つため、ギヤピンヒンジ・ロッド棒受金具は外したままにしないでください。

遮光板付製品の OFJ-D については、連結して使用することはできません。

扉の開閉角度は約 110°です。
扉を開けた状態で右図の矢印方向にさらに荷重を掛けしないでください。
蝶番部および扉の変形・破損の原因になります。

穴加工した部分は、突起やバリをヤスリなどで確実に除去し、タッチアップペイント（弊社型番：BP81）などで補正を行ってください。錆が発生するおそれがあります。また、穴加工した場合に取付けるパーツは IP 性能に合致したものを使用し、保護等級に応じた処置を行ってください。IP 性能の保持ができなくなるおそれがあります。

各種取付ねじは下表の適正締付トルク値を守り正しく締付けてください。
締付けが不十分の場合、落下・破損の原因となります。
また締付け過ぎの場合は、ねじやタップを破損するおそれがあります。
キャビネット設置時は必ず下表の適正締付トルク値にて各種取付ねじを締直してください。締付け忘れにより屋根・側板・遮光板などが落下してけがをされるおそれがあります。

ねじの呼び	適正締付トルク N・m ※3
M5	1.8～2.9
M6	2.9～4.4
M8	7.8～13.7
M10	14.7～24.5
M12	33.6～50.4
M16	50.0～59.8

※3 但し、Sタイトねじにおいて締付けの時の初期値はこの限りではありません。

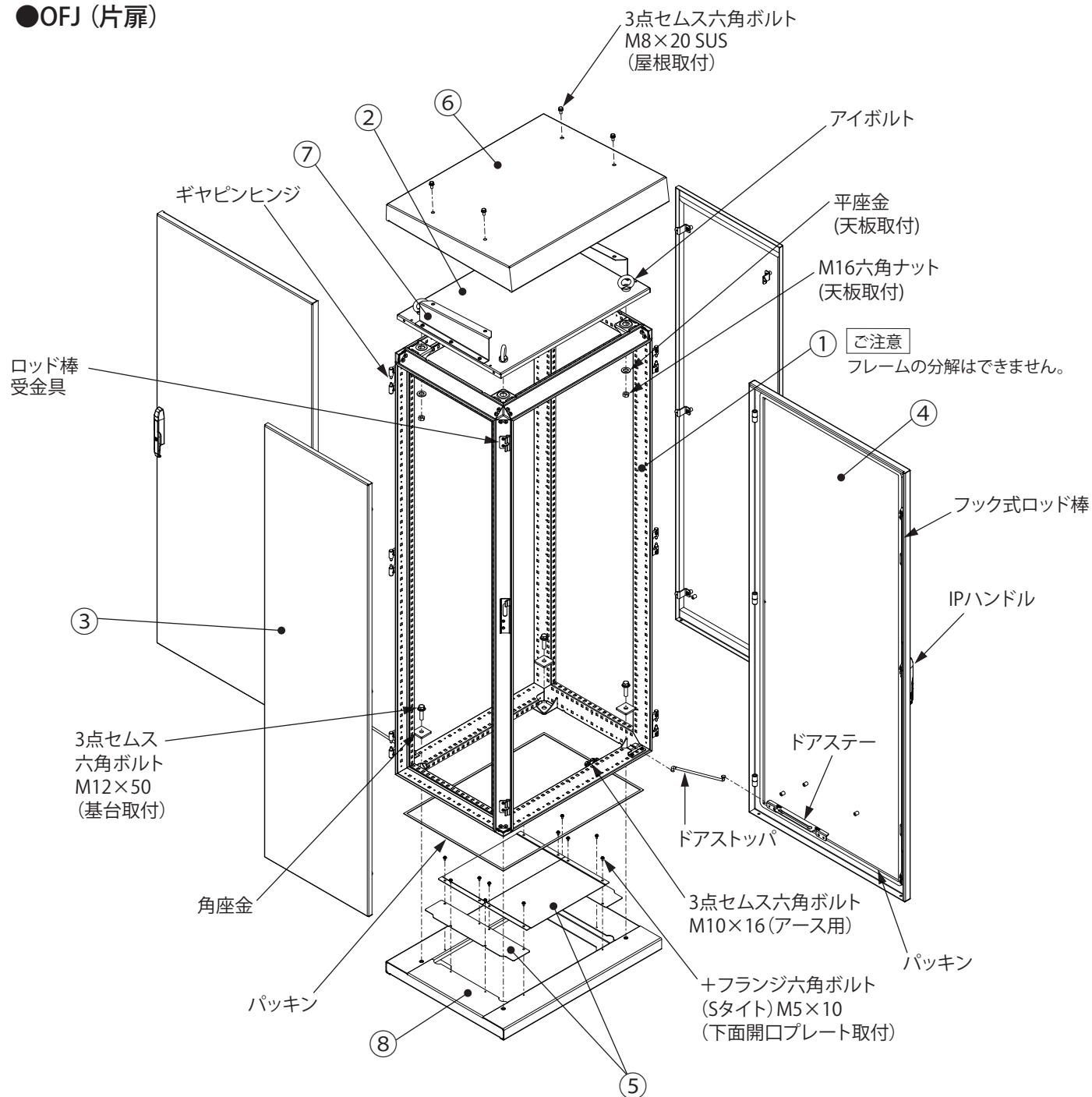
キャビネット設置後は、定期的になじみの増締めを行ってください。ねじのゆるみにより側板（遮光板）などが落下してけがをされるおそれがあります。

キャビネット下部の下面開口プレートは、下部入線口カバーのため強度がありません。荷重は、基台またはフレームで直接受けるようにしてください。下面開口プレートに荷重が掛かると、下面開口プレートが変形し、機器の故障やけがの原因となるおそれがあります。

重量物は低い位置に設置し、重心位置を低くしてください。また扉部ではできるだけ蝶番側に設置してください。キャビネットが転倒・変形し、けがをされるおそれがあります。

■仕様

●OFJ (片扉)



(単位：mm)

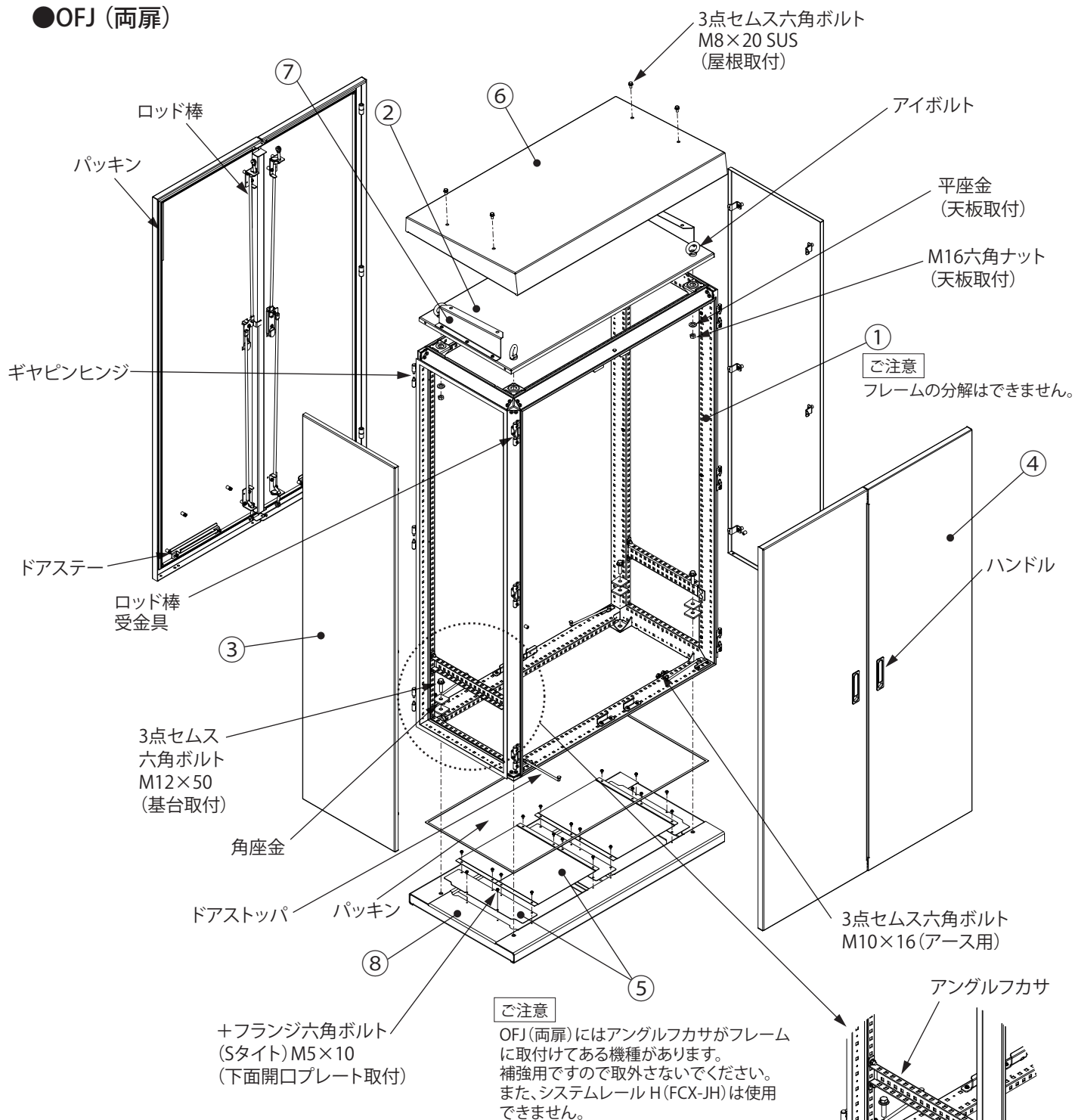
番号	部 品 名	OFJ (片扉)	
		材 質	板厚
①	フレーム	鋼板・塗装	t 2.0
②	天 板		t 2.3
③	側 板		t 2.3
④	扉		t 2.3
⑤	下面開口プレート		t 1.6
⑥	屋 根		t 2.3
⑦	屋根取付金具		t 2.3
⑧	基 台	ステンレス・塗装	t 3.0

●付属品

付属品名	姿 図	用 途	数 量
3点セムス六角ボルト M8×20 SUS		屋根取付	4 コ
キー (キーNo.N200)		扉の施錠	1 コ
取扱説明書 (本紙)	—	—	1 部

仕様

●OFJ (両扉)



(単位：mm)

番号	部 品 名	OFJ (両扉)	
		材 質	板厚
①	フレーム	鋼板・塗装	t 2.0
②	天 板		t 2.3
③	側 板		t 2.3
④	扉		t 2.3
⑤	下面開口プレート		t 1.6
⑥	屋 根	ステンレス・塗装	t 2.3
⑦	屋根取付金具		t 2.3
⑧	基 台		t 4.0

適用機種

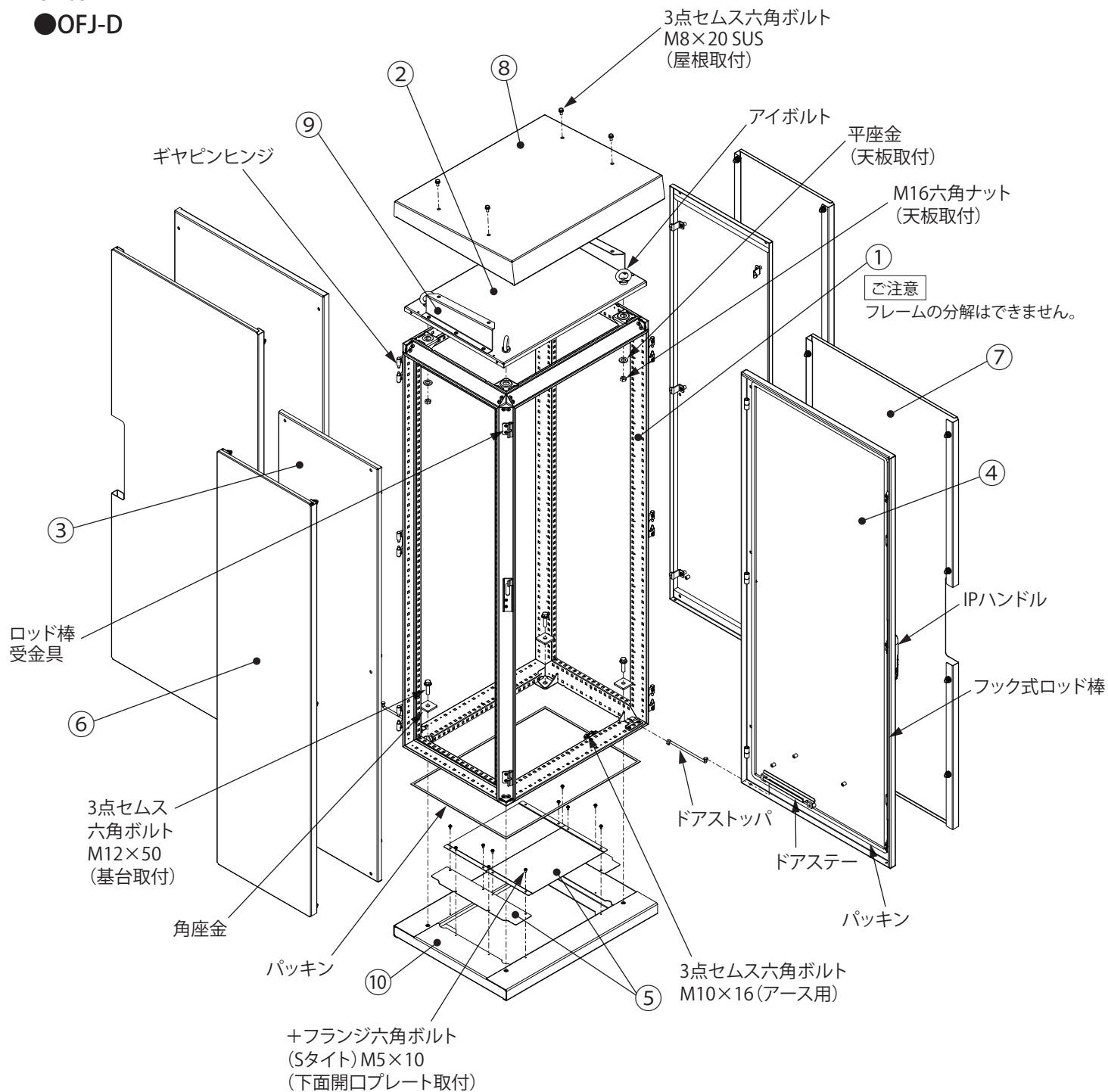
OFJ60(80)-1021(-T1--T2)
 OFJ60(80)-1023(-T1--T2)
 OFJ60(80)-1219(-T1--T2)
 OFJ60(80)-1221(-T1--T2)
 OFJ60(80)-1419(-T1--T2)
 OFJ60(80)-1421(-T1--T2)

●付属品

付属品名	姿 図	用 途	数 量
3点セムス六角ボルト M8×20 SUS		屋根取付	4 コ
キー (キーNo.N200)		扉の施錠	1 コ
取扱説明書 (本紙)	—	—	1 部

仕様

●OFJ-D



(単位：mm)

番号	部 品 名	OFJ-D	
		材 質	板厚
①	フレーム	鋼板・塗装	t2.0
②	天 板		t2.3
③	側 板		t2.3
④	扉		t2.3
⑤	下面開口プレート		t1.6
⑥	遮光板左右		t1.6
⑦	遮光板扉		t1.6
⑧	屋 根		t2.3
⑨	屋根取付金具	ステンレス・塗装	t2.3
⑩	基 台		t3.0

●付属品

付属品名	姿 図	用 途	数 量
3点セムス六角ボルト M8×20 SUS		屋根取付	4 コ
六角ナット M8		遮光板(背面) の取付	7 コ
平座金			14 コ
バネ座金			7 コ
ゴムパッキン			7 コ
キー (キーNo.N200)		扉の施錠	1 コ
取扱説明書(本紙)	—	—	1 部

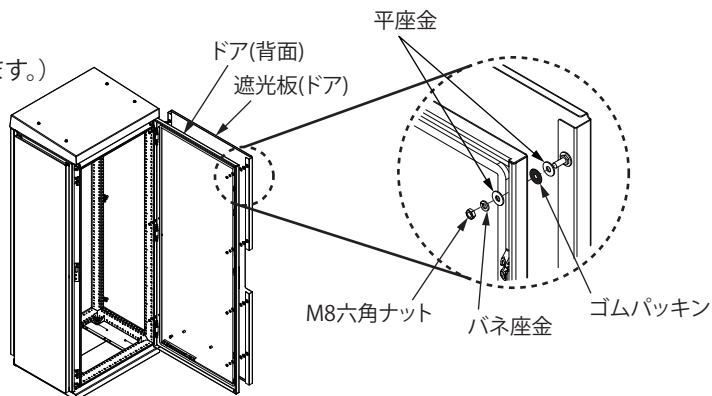
■遮光板および屋根の取付けについて

⚠ 注意

	遮光板、屋根は重量物です。けが防止のため、1人で着脱作業を行わないでください。		天井面への局所的な荷重を避けてください。変形の原因になります。
--	---	--	---------------------------------

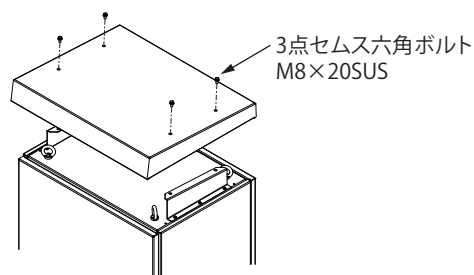
【遮光板の取付方法】

付属品を使用し、右図のように取付けてください。
(梱包方法によっては、遮光板ドア(背面用)が同送になっております。)



【屋根の取付方法】

本品は屋根が別梱包です。
キャビネット設置後に付属品を使用し、右図のように取付けてください。

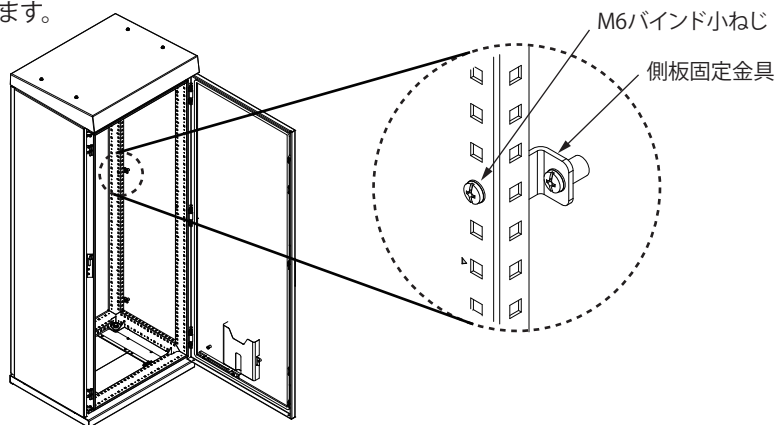


■側板の取外しについて

⚠ 注意

	側板は重量物です。けが防止のため、1人で着脱作業を行わないでください。
--	-------------------------------------

側板は下図のM6ねじを取外すことで外れます。



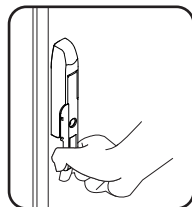
■ハンドルの開閉について

⚠ 注意

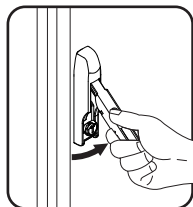
	ハンドルの取手を握ったまま勢いよく閉めないでください。指を挟み、けがの原因となりますので、慎重に閉めてください。		シリンダー施錠位置あるいは解錠位置以外では、キーを無理に引抜かないでください。キー・シリンダーの破損の原因になります。
	ハンドルのシリンダーにキーを差した状態で、キーに強い衝撃や荷重を掛けしないでください。キーの変形・破損の原因になります。		ハンドルの施錠・解錠する頻度が多い場合は、シリンダーに定期的に鍵用潤滑剤を塗布してください。キーの抜き差しが硬くなるおそれがあります。

【ハンドルの開閉方法 (片扉)】

開け方

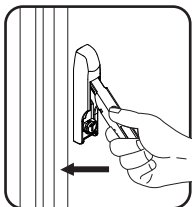


(1) 取手下側のレバーを引きます。

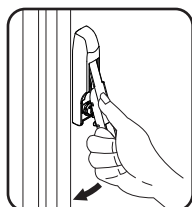


(2) 取手下部のレバーを引きながら取手を引き扉を開けてください。

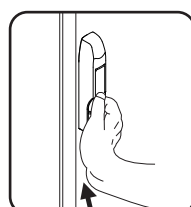
閉め方



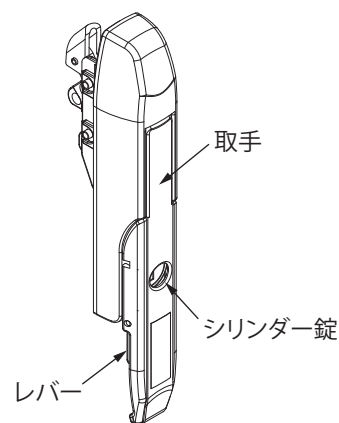
(1) 取手を持ちます。
※この時取手は上へ完全に上がった状態のこと。



(2) 扉を押えながら取手を閉めます。



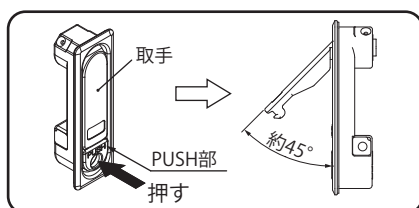
(3) 手のひら全体で取手を押し扉を開めてください。



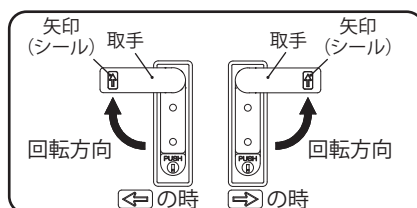
IPハンドル詳細

【ハンドルの開閉方法 (両扉)】

開け方

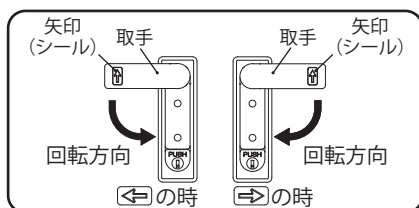


(1) 取手下の PUSH 部を押します。

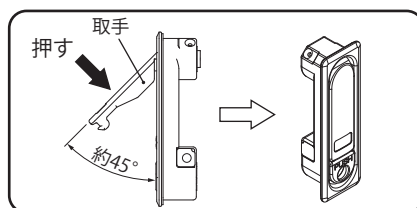


(2) 取手を握り、矢印(シール)の方向へ回し、ドアを開けてください。

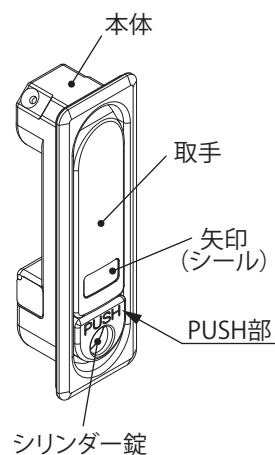
閉め方



(1) 取手を握り、矢印(シール)と反対方向へ回し、ドアを閉めます。



(2) 飛び出している取手を本体側に押してください。



ハンドル詳細

■扉の取外しについて

⚠ 注意



扉は重量物です。けが防止のため、1人で着脱作業を行わないでください。



扉側の蝶番とギャビンヒンジの軸が合わない状態で、無理にねじ部を回さないでください。ギャビンヒンジが破損するおそれがあります。

(1) 扉の開角度を約 60°に保ち、ドアストッパをフレームから外します。(図 1)

(2) 扉の開角度を約 90°に保ち、ギャビンヒンジのねじ部を矢印の方向にドライバーで回し、蝶番ピンのはめ合いを外します。(図 2)

(3) 扉の開角度を約 90°に保持したまま、扉を蝶番から矢印の方向に外します。(図 3)

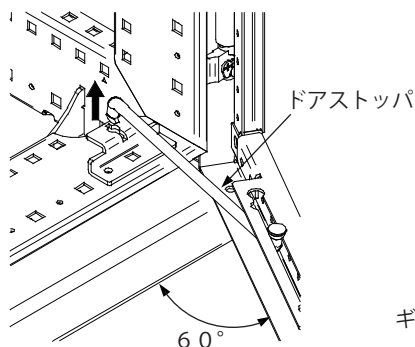


図 1 ドアストッパの外し方

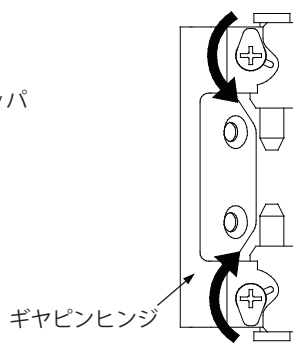


図 2 蝶番ピンの外し方

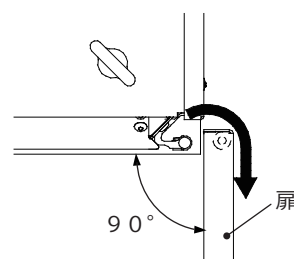


図 3 扉の外し方

■扉の取付けについて

- 扉の取付け時、ギャピンヒンジは扉の中央部より取付けてください。ギャピンヒンジねじ部を矢印方向に回し、確実に固定してください。(図4、5)
- 図5に表記されている順番に蝶番ピンをはめ合わせると、容易に扉を取付けることができます。

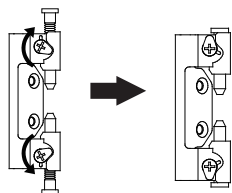


図4 蝶番ピンの固定の仕方

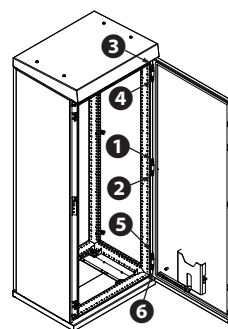
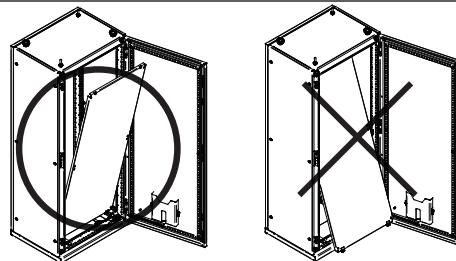


図5 ギャピンヒンジのはめ合わせ順序

■鉄製基板の取外しについて〔組替仕様 鉄製基板タイプ -T1・-T2〕

⚠ 警告

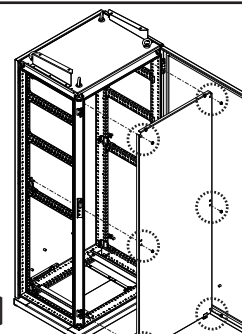
鉄製基板を外される時は、右図のように上部を手前に引いて引出してください。鉄製基板の下部が手前になりますと飛出してくることがあり、非常に危険です。



⚠ 注意

鉄製基板は重量物です。けが防止のため、1人で作業は行わないでください。

- 鉄製基板は M8 六角ナットを外すとフレームから取外することができます。



■鉄製基板の前後移動について〔組替仕様 鉄製基板タイプ -T1・-T2〕

- 鉄製基板を取付けている鉄製基板取付金具(上、中、下各2個)のねじ(角根丸頭ボルト M8×20・12個)を取外しますと、鉄製基板の前後移動が 25mm ピッチで可能です。
- 鉄製基板の動きが悪い場合は鉄製基板を固定をしているねじ(六角ボルト M8×35・6個)をゆるめて移動を行ってください。



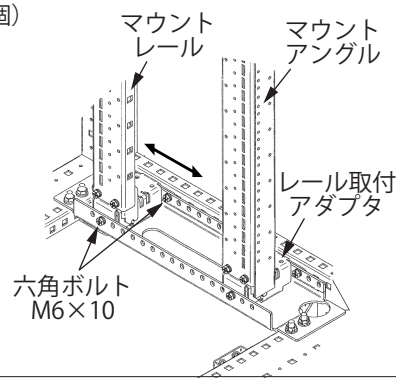
■マウントアングル・マウントレールの前後移動について〔組替仕様 ラックマウントタイプ -E〕

- マウントアングル・マウントレールを取付けているレール取付アダプタ(上、下各4個)のねじ(六角ボルト M6×10)を取外しますと、前後移動が 20mm ピッチで可能です。

ご注意

- マウントアングル・マウントレール間のピッチを変更しますと、下記オプションの実装ができません。同一ピッチになるよう前後とも同様に移動してください。

- | | |
|--|------------------|
| ☐ スリット付台板セット | 【RD152-◇SN(SK)】 |
| ☐ スリット付スライド式台板セット | 【RD162-◇SN(SK)】 |
| ☐ 重量用台板セット | 【RD151-◇SN(SK)】 |
| ☐ 重量用スライド式台板セット | 【RD161-◇ES(ESK)】 |
| ☐ L型レール | 【RD65-◇PW(K)】 |
| ☐ 線止めバー | 【RD83-D◇PK(KN)】 |



お問い合わせ先

ご不明な点がございましたら弊社お客様相談センターにお問合わせください。

TEL (0561) 64-0152

〈受付時間〉9:00～12:00、13:00～17:00(土・日・祝日は休み)

- お客様からご提供いただいた個人情報は、商品の修理やご相談への対応、および情報の提供に利用いたします。
- 利用目的の範囲内で、グループ各社と共同で利用させていただく場合があります。
- 個人情報はあらかじめ本人の同意を得ないで、第三者に提供することはありません。

本製品の故障や瑕疵により、当社の予見の有無を問わず生じた二次損害について、当社は一切の責任を負いかねます。仕様など、お断りなしに変更することがありますのでご了承ください。

2024年6月
B881211924
SK-058F